

与論町新庁舎建設計画に関する住民説明会

会 議 録

会議名	第１回与論町新庁舎建設計画に関する住民説明会
会議の日時	平成２８年７月２１日（木） 午後８時～午後９時１５分
会議の場所	与論町地域福祉センター
説明者	山町長、庁舎建設検討委員会委員長 久留副町長、事務局長 沖島総務企画課長、事務局 総務企画課 竹村
書記	事務局 総務企画課 竹村
出席者	５８名、内庁舎建設検討委員会６名、役場２８名 合計８６名

<会次第>

１ 開会、２ 町長あいさつ、３ ①概要説明・②詳細説明、４ 質疑応答、５ 閉会

<配布資料>

・与論町新庁舎建設計画に関する住民説明会資料

■質疑応答

内容	（委員長）ここまで３０分程かけまして、これまでの状況説明を行ってまいりました。質問がありましたら挙手の上お願いいたします。 （住民）サッカー場建設予定地に建設してはどうか。地震、津波、スーパー台風はいつ来るか分からない、優先順位が違うのではないか。今大事なのは職員の命。サッカー場の予定地に役場を造って、サッカー場はその後にもっと素晴らしいものを造りましょう。 工事は町内の業者に施工させ、設計は世界中に公募することにより観光宣伝にもなり一石二鳥の効果がある。 （委員長）多目的運動広場の予定地として、起債事業あるいは補助金が動いている関係で、多目的運動場の予定地に庁舎を建てるのは目的外使用になることから、これまでのお金の返納も生じるので庁舎建設への変更は考えておりません。設計・施工についてのご意見はごもっともだと思っております。 （住民）砂美地来館周辺に役場が移転することには強く反対します。今ある茶花の街を活性化させることが正統な方法だと思う。砂美地来館周辺に造ると、街を分散することになる。防災上の点から言うと、現在地は４．５８ｍの津波が想定されていますが、現在の役場の位置は海に近い関係上、町民を守る立場上一番危険な所に置いて、危機感を感じる方が防
----	---

災上はいいと思います。

（事務局）庁舎建設検討委員会の意見としては、役場庁舎が被災しては何事もできないため、庁舎は災害が起きてもそれに対応できる所に無いといけない。そして、庁舎自体が壊れてはならないというのが意見です。もう一つ検討委員会での意見としては、津波が来るかどうかは分からないが、もし来た場合に茶花市街地に漁港であったり周辺からがれきが流れてきて役場前の道路周辺が埋め尽くされるなど、様々な影響があることからそういった影響が無いところに移転した方がいいというのが意見です。

（住民）場所の選定について地域的に偏っている気がします。委員会では、中学校とか与論の中央あたりを考えていなかったのか。

（委員長）安全性を考えるとおっしゃるとおりだと考えますが、島の人口の約1/3以上が住む茶花校区の方から考えますと、役場から1kmないし1.5kmの範囲を考えどの辺が一番適当であるか選定したところです。

（住民）大きな津波が来て茶花の市街地が被災した場合、役場だけが残って、予算をかけて復興するのに何年かかるか。茶花に人はいないのにどうやって復興するんですか。茶花の湾は非常に危ないんじゃないですか、ウフィンジャー帯は一発ですよ。

（住民）叶集落だと島内の中心にありますので、どこからでも距離が同じ。屋内ゲートボール場がいいと思う。清掃センター跡地も活用できるのでは。公共施設が集中して便利がいい。

（事務局）砂美地来館周辺につきましては、標高が高いということ公共施設が集中しているので、町民の皆さんの用件が近場で済むという利点があります。ただ、役場の施設、防災拠点が一カ所に集まりすぎると、何か事が起こった時に一度に被害を受けるので分散していることでの利点もあります。

（住民）役場ができたところにすぐ街ができるわけではありません。商店や金融機関があることで街ができるので、役場もそばにあった方が良くというのが街なんです。それと、津波の影響を勝手に想像すべきものではありません。専門家の人が検討した結果、4.58mと言っているのではないですか。だから何十メートルの津波が来ると勝手に想像するものではありません。街の利用を考えると、赤崎や城や那間とか遠くから人が集まり、用事を終えて時間を作ってついでに役場でできることもあるから、いきいき街づくりのために役場は茶花に置くべきだと考えています。

（委員長）そのことについては、検討委員会で役場を移転した、喜界町・天城町で視察を行っていますので、その時の報告を担当から説明します。報告では、役場だけが移動しても商店街にはそれほど影響は出ていないというのがその時の結論だったと記憶しています。また、インターネットで役場が移転したことによる商店街への影響について調べてみますと、ほとんどが大型店舗の進出によって商店街に影響が出ているようです。

（事務局）郡内で役場庁舎が市街地から郊外に移転した喜界町・天城町の視察を行っていますので、報告書を紹介します。役場庁舎は町民全体の利便性と車社会を考慮し安心・安全な防災拠点となる位置に建設することが大事だと感じた。商店街活性化の対策も必要であるが商店街の自助努力が何よりも大切だと感じた。庁舎の老朽化や駐車場不足など旧天城庁舎と同様な問題があり、庁舎移転について議論が必要だと感じた。庁舎移転の際は、庁舎跡地利用計画や地元商店街の理解の得られる街づくりが必要であろう。という報告であります。

（住民）庁舎の移動には賛成です。庁舎が万が一移動した場合、跡地を公園整備してヨロシマラソンに利用したりイベント会場にしたり、その使い方で茶花の街が活性化できるし、役場だけが茶花の活性化ではないと思うので、まずは命あってのもので100人以上の人間が庁舎にとどまった時に絶対無いとも言えない、有るとも言えないんですけど熊本地震も想定外です。人の命を一人でも無くしたとき、その人に対する補償そういうのを考えたら早く庁舎をきちっと造っていただいた方が、町民に対して有効だと思います。移動する場合は、高齢者が多くなっていますのでバスが通せて利便性がいいように、高齢者が安心して役場に行ける、そういうことを考えて造っていただきたい。

（住民）災害を主として庁舎を建てることを前面に出すということもありますが、ただ、お願いしたいのは茶花郊外、市街地が災害対策の部分で地震とか津波が来た時に、全体的に非常に影響を受ける地域であり、役場は1日100人くらい、商売をしている私たちから言わせると1,000人から2,000人近くの人が毎日来るわけです。災害ということを考えるのであれば、同時並行で避難計画等も綿密に作っていただけないか。アンケート調査の結果ですが2年前に1回実施し、その時に2,160世帯に配って、回収が961世帯、回収率でいくと44%という結果になっています。町長のコメントの中で、町長が新しく変わってアンケート調査を実施していないし、果たして44%の結果を持って決断していいものかということです。せめて半分以上の人が庁舎移転に対して興味を持つとか、参画できるような調査の実施ができないかお願いしたい。説明会も1回だけではなく、もっと開いた方がいいんじゃないかという気持ちもあります。それと検討委員会での委員の欠席が多いので、選ばれた方が是非そこに参画して、語って何らかの形で話ができるようにしていただきたい。

（委員長）検討委員会では候補地としては5箇所あがっていますが、今日の説明会では、これらを含め広くご意見を頂戴したいと思います。

（住民）まず第一に庁舎に出入される方、職員の方々の生命、やはり早急なる対策が必要じゃないか。さほど時間をかけられない。これから造る庁舎というのは、想定外が発生しないように全てが想定内に納まるように安全性を求め、将来に対する発展性を求めてやることが大事だと思います。まず早急に移転することを考えると、与論中学校に庁舎を移し

たらどうか。これは、現在の校舎を利用しながら移転をする、仮住まいになりますが。そこで将来の建設資金１００％全うできる積み立てをする。中学校の生徒は、高校と中学校が一貫教育ですので、人口が減っている中で高校にも教室の空きがあると聞いている。これが実現できないか。これができれば、敷地の購入問題、選定場所これらが一気に解決するんじゃないかと感じている。これは現実的には行政間の問題で、県の財産と町の財産、できるかどうかよく分かりませんが考え方としてこういった交渉ができないものか。中学校の位置にあれば津波の問題は解消できるし、地震に影響する断層も中学校は大丈夫だと聞いている。あらゆる面で想定外の無いように慎重に色んな条件を調べながら策定された方がいいんじゃないかと考えます。

（委員長）学校のことに關しては、それぞれ専門の方々と協議したいと思います。アンケートを取った時点では、東北の震災の後だったということもあり、対 津波ということだったんですが、熊本の活断層の震災では庁舎が潰れた映像を見て、町民の皆さんの考えも色々変わってきているのも事実だと思います。

（住民）立地条件として一番安全なのは与論中学校だと思います。与論中と高校が第１回目の指定で中高一貫教育をしているわけで、現在は隣り合わせの学校という形ですが、それを併設型にすることで県としても財源的にも良いと提案したんですが、自治体の小・中学校を設置する義務、当時県内に公立の中・高一貫教育校が無いということでした。しかし、去年、楠隼（なんしゅん）中学校・高校もできていますので、交渉の余地が生まれたと思っています。町、教育委員会、議会が一体となって併設型の中高一貫校を県にお願いしながら庁舎問題を考えていけば理想的な悔いのない方法ではないかと思っています。

（委員長）現在の庁舎の状況を考えますと、より実現可能な方法を検討いただくということもご意見としていただけたらありがたいです。

（住民）防災機能の話で、台風時は停電がありますので自家発電や自然エネルギーをお願いできないかと考えており、与論ではどの自然エネルギーがいいのか調査した上で検討していただきたい。

（事務局）平成２７年度に国・県の補助を受け、砂美地来館に災害時の非常用電源として風力、太陽光の設備を導入しています。現在までデータを取っていますが、１年ほどでどれがいいのか見えてくると思います。また、同じく平成２７年度に低炭素地域づくり事業を実施して、この検討委員会の中でも自然エネルギーを活用しようとなっていますので、今後も庁舎建設検討委員会で検討してまいります。

（住民）南西諸島で歴史的に大きな地震があったことも示されています。これ以外にも台風被害もあったと思いますが、歴史的なデータでどこが安全であるか検証はしているのか。県外から来た人間からすると、庁舎は島のどこにあっても距離的に不便だとは思わない。

（住民）地震・津波はだいたい目安としてどれくらいを想定しているんですか。また、地

震、津波、台風がある中で、防災拠点は復興に当たって重要だと思う。防災拠点として与論町の機能をどのように認識しているか。

（事務局）先ほど説明した津波予測については、鹿児島県が調査したもので説明の中で今回想定する地震等は、県地域防災計画を策定する上での想定であり、必ずしも一定期間内の高い発生確率のものではなく、発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスのものを中心に、県地域防災計画検討有識者会議の意見を踏まえて策定することとしたとなっています。可能な範囲で最新の科学的知見、国のデータ等を踏まえた想定として、南西諸島海溝沿いのマグニチュード9クラスの巨大地震については今回は想定していないということになっています。県・国としてもこれだけの地震や津波が起きますというのは、はっきりとは言えないと思います。本町としても、津波が市街地のどの辺まで来ますというデータを示せればいいのですが、データとしてもってこれるのは、こういった数値になるのが現状です。防災計画についてですが、災害警戒本部の設置場所については、災害に応じ役場内もしくは防災センター内に置くものとするが、震度4以上の地震が発生したときや津波警報が発令されたときには、砂美地来館の横の防災センター内に置くとされています。

（住民）検討委員会が6・7回開催されていますが、ペースがスロー過ぎてこういう説明会の要望・意見が集約できないと思う。検討委員会をスピーディーに開催して31年度末に完成することになっているので、検討委員会を月1回にでもしてもっと早く町民全体の意見を集めて。町民全体の代表が検討委員ですから、委員会は町民が納得いく方向にいくよう早めに進めた方がいいと思います。

（委員長）ありがとうございました、今日いただきました意見を早急にまとめながら、基本構想に盛り込み皆様方にご提示していきたいと思っています。